



vol.296 August 30th 2020

芽吹きの香りに誘われて

宇治プロジェクト始動!

UDCU 設立の背景と宇治の展望

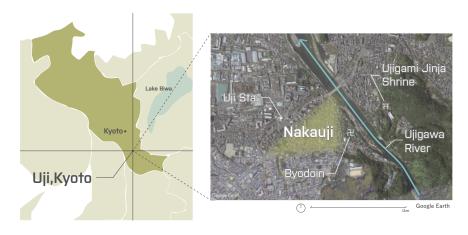
宮城先生インタビュー

プロジェクト一期生の意気込み

vol.296 芽吹きの香りに誘われて TEXT_KAWASAKI / M1

宇治プロジェクト始動!

2020年度より新たなプロジェクトとして始動した宇治プロジェクトは8月 初旬についに現地へ赴き、メンバー同士の顔合わせも兼ねた初のフィールド ワークを行った。この記念すべき機会に対象地・宇治の基本的な情報を整理 し紹介する。



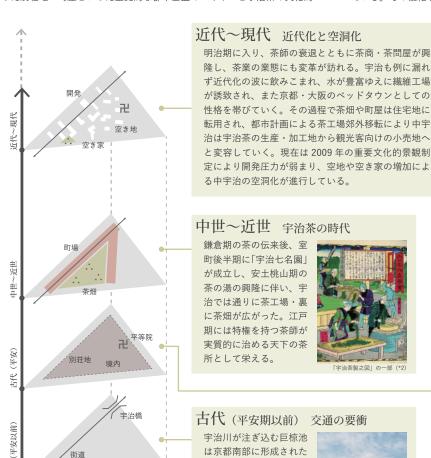
SITE 宇治市中宇治

宇治市は京都盆地の東南部に位置し、京都市 中心部から直線距離でおよそ 12km の距離に ある都市である。宇治市の中でも、琵琶湖を源 とする宇治川による扇状地上に形成された「中 宇治」と呼ばれる地域は、古くから京都と奈良 を結ぶ交通の要衝として発達し、平等院鳳凰堂 をはじめとする歴史的資源を有する観光地であ り、また中世以降は茶の伝来による宇治茶の メッカとなっている。

2009年にはその美しい自然と歴史的な市街 地、宇治茶の伝統を継承する「宇治の文化的景 観」が都市部では初めての「重要文化的景観」 に選定された。

◆宇治の重層性を時間軸から読み解く

宇治はその豊かな自然基盤レイヤーの上に、交通の要衝・源氏物語の舞台と なった別荘地・町屋といった歴史的な都市基盤のレイヤーと宇治茶の文化的 レイヤーが重なり、それらの重層が現代の都市空間や観光資源として表出し ている。その複雑な宇治の重層性を時間というひとつの軸で整理する。



は京都南部に形成された

巨大な湖沼であり京都ー

奈良間の交通を妨げてい

た。そこで646年に架

けられたと伝えられる宇

治橋は二都市の結節点と

なり、中宇治は交通の要

衝として発展した。

古代(平安期) 別荘地と平等院

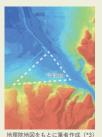
藤原氏の王朝文化が花開 き、風光明媚な中宇治も 別荘地としての性格を帯 びる。1052年には藤原 頼通が父・道長より譲り 受けた別荘を仏寺に改 め、平等院が開かれる。 中宇治のほとんどが境内 となっていたという。



「『宇治の文化的景観』全覧図」(*1)

自然基盤 宇治川が作る宇治の基盤

中宇治は琵琶湖から流れ 出た宇治川が形成した扇 状地上に位置する。その 豊富な湧水は人の集住だ けでなく、庭園の池や茶 業の興隆、また工場の誘 致にもつながる中宇治の 重要な自然環境の基盤と なっている。



*1 「宇治の文化的景観」全覧図,『都市の営みの地層―宇治・金沢』(文化的景観ス タディーズ 04),pp40-41より 作成=奈良文化財研究所景観研究室

街道

扇状地

宇治川

UDCU 設立の背景と宇治の展望 宮城先生インタビュー

宇治プロジェクト始動のきっかけであるアーバンデザインセンター宇治 (UDCU) 設立の背景とこれから宇治の展望について、宇治プロジェクト担

当教員である都市デザイン研究室教授の宮城俊作先生にお話を伺った。

- UDCU は 2021 年 4 月発足ということでそれに向けて現在準備を進めて いるところですが、もともと宇治に UDC をつくろうとなったきっかけはどういったものなのでしょうか。

主に2つあると思っています。

1つ目が中字治地域の空洞化に関することです。中宇治を歩いてもらうとすぐ分かりますが、中宇治は駐車場が多いです。それは宇治での生活は車がないと成立せず、建物がなくなるとすぐに駐車場になってしまうからです。しかしこれからの時代にもっと駐車場が必要なのかというとそれは怪しいし、そういう場所をどうするかというのは考える必要があります。今言われているような「適正な密度」を考えると、地方都市の密度は随分と下がってきています。それは単に数値的な建ペい地の面積とそれ以外の面積の比率という話だけでなくて、その分布パターンも解像度を上げて見て、どういう分布状態だと住環境としてよいのかというのを考える必要があります。そこで中宇治を見てみると京都のまちなかで住むのと比べると、隣近所のことが気にならない程度の心地よい密度を感じることができて、それをコントロールすることができないだろうかと考えています。

また空き地だけでなくて空き家もかなり多いです。宇治市には空き家バンクがありますが、データベースがあるだけでそれをどう活用していくかというところまで意識が行っていません。そこで UDCU の一つの目的として空き家を再生して、貸し手と借り手のマッチングや貸し方の提案をすることがあります。

中宇治は歴史的な市街地で文化的景観の範囲にも入っていますが、いわゆる重伝建地区(=重要伝統的建造物郡保存地区)ではないし、そうなりたいとも思っていません。中宇治は建物が連続した街並みではなくて雑然としていて、それは空き地や空き家などのヴォイドの部分が現状としてコントロールされていないからだと思います。ヴォイドのコントロールによってまちとしての統一感を保ちながら、住環境としてちょうどいい密度感を UDCU によってつくり出していけるのではないだろうかと考えています。



▲宇治橋通り商店街の景観



▲多孔質 (porus) な中宇治

2つ目は観光に関することです。いまはコロナによってこのような状態になっていますが、昨年までは観光客で溢れかえっていました。しかし宇治に住む人に聞いても、観光客が大勢来ているから極端に困るとか生活を侵されていると思う人はあまりいなくて、それは昔からそういう観光のまちであり、また何よりも宿が少ないために夜に騒音などの問題が起きていないからだと思います。ただ一方で昼間は大勢の観光客が来ていて、まちにあるお店も観光客向けのお店が多く、地元住民に向けて商売している人は少なかったです。そうしたときにもう少し観光が地元の住民に向けていい影響を与えられるのではないかと前から思っていて、それが UDCU 設立のもともとの発想です。

そうした中で宇治橋通り商店街に中宇治 yorin をはじめとする地元住民も使えるようなお店がいくつかできてきたときにローカルな生活圏みたいなのが成立するのではないかとなったわけです。そして中宇治に住む30代前後の若い人たちが何かやらなきゃとなってきたときにその人たちを応援するにはUDCという形が一番分かりやすいんじゃないかと思い、設立に至りました。

- UDCU によって観光客と住民の接点を上手く作ろうということなのでしょうか。

というよりは、6月の「今、都市の未来を見つめて」(UDCM6月号参考)の企画の時も話しましたが、このコロナのような状態で観光の本来の意味を考えてみようとなったときに、地元の人たちが充実した文化的な生活を送ってて、そこに観光が同化していくのが本体の観光なのではないかと思うわけです。中宇治 yorin のコンセプトである「通いたくなるまち」というのでも分かるけど、リピーター獲得というか、何かあったら通う、行ってみるようなまちにできないかとなりました。実際 yorin の 2 階に入っている美容室にくるお客さんは宇治の外の人も結構多い。そうすると1ヶ月に1回くらいは来るわけで、ただ髪切って帰るだけじゃなくて買い物して帰るとかご飯食べて帰るとか子供連れてくるとかということも起こるわけです。

こういう風に住んでる人が楽しそうに暮らしていないと観光地としても人が来ないし、そういう関係がずっと続くというのがサスティナブルな状態なのではないかというのが一番大きいです。



▲町屋をリノベーションした中宇治 yorin



▲旧市場の飲食施設へのリノベーション

- UDCU での活動を通じて先生がお考えになる宇治の展望とはどのようなものなのでしょうか。

やはり「選ばれる町」でしょう。それは次の世代に選ばれるということで、「選ぶ」というのもそこに住む人にとっても、そこを訪れる人にとってもということです。幸いなことに世界遺産が2つあって、宇治茶があって、宇治川の景観も美しく、ベースになるものはいっぱいあります。しかし、そのように自然環境と文化的環境と歴史的環境が重なってるけれども、それが一つのイメージにまだ収斂していないんだと思います。ずっと住むだけではなくて、1年に3ヶ月くらい住むでもいいし、1ヶ月に1回来るでもよくて、宇治への関わり方は自由でいいと思います。生活の節目で宇治が選ばれるということが大事なのではないかと思っています。

宮城先生、ありがとうございました!



▲夕食後、地図を囲んで先生を交えて議論(中宇治 yorin にて)

プロジェクト一期生の意気込み

宇治プロジェクトの初期メンバーとして名乗りをあげたのは、東京大学都 市デザイン研究室・地域デザイン研究室の、博士課程1名、修士課程7名、 学部生1名と、慶應義塾大学学部生4名、奈良女子大学大学院生4名、京都 造形芸術大学大学院生2名の、総勢19名です。夏季調査に参加した東大メ ンバーに、宇治プロジェクトの活動に対する意気込みを書いていただきまし た。大学を横断したメンバーの、今後の活動にご期待ください。



宇治プロジェクト一期生 意気込みをひとことお願いします! 宇治奈を 極める ph13

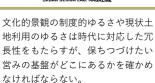
現地で様々なお茶をいただいた時に まさに千差万別で奥深く、これは何 よりも舌を肥えさせる必要があるな と感じました。

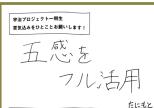
(都市デザイン研究室・M1 河崎)



2年間の院生活を宇治 PJ に関わり ながら楽しんでいきたいと思い My Life Uji としました。

(地域デザイン研究室・M1 岡本)





(都市デザイン研究室・B4 宮園)

(都市デザイン研究室・M1 谷本)



「イメージとリアルの

ギャップを楽しむ」

先入観と実際に関わってみての ギャップがまだ伝わりきっていな い魅力だと思うので、それを掘り 起こせたら良いなと思う。

(都市デザイン研究室・M1 松坂)

UDCnU の源流をつくれるように頑張り ます。(都市デザイン研究室・M2 沼田)







(地域デザイン研究室・M1 サイ)



伝統的なもの・歴史的なものをただ 残すのではなく、新たな視点をもた らすことができるように攻めていき たいです。

(都市デザイン研究室・M1 鈴木)

「宇治王になるっ!」

どこまでデザインできるか、ブラ ンド化するか。ソフトとハードを 一体的に、細部と俯瞰を行き来し ながら、取り組んでみたい。 (都市デザイン研究室・D 深谷)

INFORMATION



BOOK OF THE MONTH



城市革命 - 从公有到共有

黑川紀章 中国建筑工業出版社 2010 年

> 推薦者 M2 Miao

本書は黒川紀章氏が参加したアジア 諸国の都市計画の心得と 21 世紀に都 市が直面する課題をまとめたものであ る。黒川さんが指導した多くの都市戦 略に映っている「共生の思想」は彼の 達識だった。COVID-19 が流行してい る今、この思想を更に学ぶ価値がある と思う。

WEB MAGAZINE

続きは都市デザイン研究室 HP で! https://ud.y.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/



富士吉田 PJ 合宿@研究室

2日間かけて、まちの将来ビジョン 作成に向けた空間検討を行いまし た。残念ながら現地での実施は叶い ませんでしたが、研究室で久々に大 きな地図を囲んでの議論ができまし た。(M1 齊藤)



Trip to Hangzhou during COVID-19 This report is about a trip to Hangzhou in mid-August. The main

idea was to view the landscapes, as well as to show the traveling situation in China during COVID-19. (M1 CHEN)

LOOKING BACK AT AUGUST

4-6th 宇治 PJ 現地調査 12-13th 富十 PJ 吉田集中作業 20-21st 小高住民ヒアリング よこまちポスト ON AIR 4 25th 生き物観察会 30th

POSTSCRIPT

コロナで出鼻をくじかれ、 現地をつかめぬまま4ヶ月、 やっと迎えたフィールドワー ク。もはや期待と同じくらい 不安が強かったが、危機の中 でもしっかりと香り立つエネ ルギーに満ちた宇治の芽吹き に不安は吹き飛んだ。 (M1 河﨑)